

工芸 I

教科	芸術	単位数	2	学科・学年・コース	工業科 1 年生（選択）
使用教科書	「工芸 I」（日本文教出版）		副教材等	各種材料	

◇ 学習の到達目標 ◇

工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化について理解を深める。

◇ 科目の特色 ◇

各種素材に触れながら、生活に身近な作品制作に取り組みます。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 6	1. 張り子 2. 鑑賞	・ 身近にある小石を題材に、張り子の技法で表現する。 ・ 各自の作品を鑑賞しあい、意見を言う。また工芸作品を鑑賞し、工芸への理解を深める。
7 9	3. 堆朱工芸	・ 堆朱（桜積層材）を用いたペーパーナイフの制作。
10 12	4. 染色	・ さまざまな染めの技法について学び、布製トートバッグに型を用いておし染めする。
1 3	5. 木彫	・ 朴の板材からコースターやペントレーを制作し、木彫の技法で模様を彫る。

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

工芸への 関心・意欲・態度	各課題に興味と目標を持って意欲的に取り組もうとする姿勢が見られるか。準備・片付けがしっかりとでき、備品や道具を丁寧に使うことができるか。集団におけるきまりを守り、授業を大切にできるか。
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、よさや美しさなどを考え制作の構想を練っているか。
創造的な技能	創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表しているか。
鑑賞の能力	工芸や工芸の伝統と文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっているか。

このため具体的には、各課題の作品及び取り組みを対象とします。また 1 年間の評価は前期・後期の年間を通して、上記を総合的に判断して決めます。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

物作りは人間本来の活動の一つだと思います。それぞれの課題に意欲的に取り組み、創造の楽しさや喜びを感じてほしいと思います。伝統のなかに生かされ、生活を豊かにしているさまざまな工芸作品に触れるとき、作者の存在と想いを理解できるようになるとすばらしいですね。